

飛澤入代より共手勢我多討已敗走一小野寺越
後守味方度々駐立るを見て大小怒り勇々進たる
角館勢小刻て入四十五騎討取退退け當りの左家に
火を放騰因揚て扱たり以後欲味方入乱き大將山
内飛澤を小館市兵馬上より引但落重つて首を
取絶る如き隠しをたらし山岡宮川槻柢木河井が
二百余騎亦く出戦ひ二時をわりの合戦して日既夕
陽不及りたがひ小勢を引揚たり合戦は角館大勝なり
以後の城を攻る事もなく程攻めて九月小及依る
小山八藏といふ歩行士度々武功の益をいある者を以て

櫛田庄加勢を乞十月十三日夜八藏櫛田小着櫛田
本堂六郷白岩茂木杉北森近出張より城中は
い常が家人梶原義兵衛といふ物馴たる者を以て
あす小野寺主膳が陳を北前より加の捕まうといふ
城中は志れて強固小持依て小野寺人衆を引揚る
以後小野寺より兵を乞す事なく安ふ山本郡
淀川の城主戸上徳介忠盛は秋田にも従がはず兄
飛澤守秀が盛公の旧願山本郡を押領して居
あらか明應五年九月北より又創月二年正月十日
卒す子息梅王是より依て秋田淀川を攻る秋田小松
後号修理